

次広

忠彦通信

No. 186

2010年11月5日

日本共産党大分市議団

国民健康保険 「広域化」でますます大変に まず払える税額、お医者に行けるように



払いたくても払えない

お医者に行けない

いま国保世帯は、2人世帯の場合、所得125万円で251600円など、支払い能力をはるかに超えて、「払いたくても払えない」という事態が、ますます進行しています。こうした事態を招いた大本は、国保の総収入に占める国庫支出金の割合を、1980年代には50%だったものを、2007年度には25%にまで削減したことです。いま、資格証明書の発行や無保険者の拡大などで、お医者にか

かかれず、いのちにかかわる重大な問題も続発しています。

世論で一部改善

一方で「広域化」ねらう

政府は、一部失業者の保険税軽減や、子どもの無保険救済措置などをおこなっていますが、根本的な解決はされていません。一方で、都道府県単位の「広域化」をねらっています。市町村の繰り入れを無くし、国保を「機械的な徴収・給付機関」にしようとしています。

払える国保税に 減免充実を

一宮市は、今年度から18歳未満の国保税の均等割を3割減免しました。子育て世帯の負担を軽減するため、医療給付費分及び後期高齢者支援均分の均等割の合計31,200円を3割減免して21,840円とするというものです。大分市としても、こうした減免制度を導入す

るように求めました。

一般会計からの繰り入れも

全国的にも、高すぎる国保税の引き下げを図るため、一般会計からの繰入を増やす自治体が増えていきます。

大分市でも、繰入額を増やして、「払える」保険税にしていくことを求めました。

☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆

戦争遺品・遺跡の保存を

佐伯市の平和記念館「やわらぎ」に行きました。「戦争と佐伯の関わりを検証し、平和について考える施設として建設」と聞きました。佐伯海軍航空隊の概要紹介、戦争体験者の証言や遺品などの展示がありました。大分市内の戦争遺品などが散在する事態になっている。展示する場所がほしい」という声が寄せられています。

日頃の「いま

10月17日

緑が丘団地

体育祭におじゃましました。開会行事で「子ども太鼓」の発表がありました。地域で育てる文化の重要性も、あらためて認識させられました。



日本共産党と広次◎

大学2年生の年末、カメラ屋さんでアルバイトをしていました。夜、アパートのドアをたたく音がしました。「こんな時間に誰だろう」と思いつつドアを開けると、次期自治会執行部選挙に出る人を募っている現執行部の人たちでした。話を聞き、まじめに学生の要求を実現するために努力していることが分かり、出る決意をしました。年明けから選挙運動が始まりました。(続)